「地域とともに、こころの健康を支えつづけます ― 信頼関係にもとづく医療と福祉」

この度、内田里華前理事長の後任として、医療法人全和会の理事長に就任いたしました。
少し歴史を振り返りますと、つむぎ診療所の前身である、秩父中央病院が故・内田全一先生（元秩父市長）により開かれたのが昭和 32 年、実に 69 年前です。昭和・平成と時代は流れ、特にここ約 25 年間は、内田里華先生のリーダーシップのもと、幾多の荒波を乗り越え、私たちは一貫して、秩父地域の精神科医療・福祉・介護のため、誠心誠意、取り組んでまいりました。そして、平成 31 年、秩父中央病院を閉じ、つむぎ診療所に移行、令和6年には、介護老人保健施設ビッラベッキアを事業譲渡いたしました。
入院・入所（介護）の機能がなくなったことで、みなさまに一部、ご心配・ご負担をおかけしていることをこころに刻みつつ、同時に、精神科医療・福祉のあるべき姿である「病院から地域へ」の方向性を大切に、時代の流れ、社会や地域のニーズを見きわめながら、引き続き、秩父地域における、質の高い精神科医療・福祉をめざしてまいります。
こどもから高齢者まで、一人ひとりのこころの苦しみ・生きづらさの理解と支援に努め、病気や障害があっても、なるべくこの地域で暮らし続け、ご本人・ご家族にとって、よりよい人生を送れますよう、職員一同、尽力してまいります。
そして、この秩父地域において、こころの不調への誤解や偏見が減り、誰も否定されない、「こころを大切にする文化」をはぐくんでいけますよう、願っております。
続いて、私自身の信念のようなものをひとつ、述べさせていただきます。
私たちが、今、対人支援の仕事ができているのは、私たち自身の志しはもちろん重要ですが決してそれだけではなく、まわりの人たちの支えがあってこそであり、本質的には、さまざまなめぐりあわせ・運もあったのだろうという、謙虚な心構えです。大変な仕事ですので、正直、苦しくなることもございますが、それでも、この仕事をさせていただけていることに、こころからありがたく、感謝しています。そして同時に、与えられた責任もまた、強く感じる次第です。
もうひとつ、コンピュータ・AI の進歩が著しい昨今、便利な相談相手として AI を利用する人も増えています。精神科医療・福祉の仕事の一部、特に知識や情報的なこと、表面的とはいえカウンセリング的なことまで、AI はそれなりに対応してくれます。しかし、AI は本質的に機械です。こころの苦しみや痛みは、人と人との信頼関係にもとづき、理解され支えあう中で、いやされ、回復し、成長するものです。機械である AI とは違って、私たちにはこころがあり、こころを使って信頼関係を築き、支援の仕事に取り組んでいます。
こころをきちんと使って仕事をすることは、とても大切ですが、同時に、大変に疲弊します。よりよい支援

の基盤となる、私たち医療者・支援者自身のこころの健康も保てるよう、セルフケアしたり、仲間と支えあえる職場、職員がそれぞれの持ち味を生かして活躍し、「この仕事をしていてよかった」と誇りに思える職場であることをめざします。

そして、この秩父地域で、私たち医療法人全和会の営みが末永く、安定的に持続・発展していけますよう、努めてまいります。

至らぬ点も多々あるかと思いますが、職員一同、一層精進してまいりますので、ご理解・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

みなさまにおかれましても、どうかご自愛のほど、こころよりお祈り申し上げます。

令和８年６月吉日

医療法人全和会　つむぎ診療所

理事長・院長　吉川　信一郎